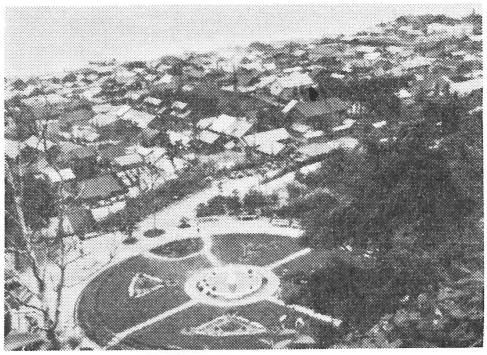
地方だより

稚内地方気象台

往年の鰊千石の宗谷沿岸も，長い間続いた不漁で，沿岸漁民は昔日の面影はないが，それに変って動力船による樺太，沿海州方面に出漁の遠海漁船は年々その数を増し船体も大型化され稚内を基地とするものは200隻を数え，その水揚げは年間大変なものである．

最北端稚内も市制施行されて10年，昨夏市を上げての祝賀行事が行われました．人口5万余，商店街も急激に鉄筋建物と変り，昨年末には総工事費3億円以上で市立稚内病院が建てられ，本年早々開院しています．



公園より市内を望む
（晴天の日は樺太を見る事が出来る）

又懸案された飛行場も昨秋完成，去る12月3日北日本航空ダグラスD3型（31人乗り）による初視察が行われ，今春から稚内→札幌→東京と楽しい日帰りの空の旅が出来そうです．これによって当台では航空気象の協力にも忙しくなる事でありましょう．

細長く海と山に狭まれて伸びる街（俗に褌町という）は現在白一色に塗りつぶされ，文字通り穴ごもりの生活であります．（早くても4月上旬迄は）…….

盆踊りの太鼓の音も聞かれなくなった昨年の8月下旬は平年より4°Cも低温で，ゆかたがけの姿も何時もの年より早目に見られなくなり秋立のきざしが感ぜられたが10月下旬から11月にかけての高温で平年より10日もおそく「白いもの」を観測，積ると思われた雪も引続いた高温で平年より20日以上もおそい根雪となりました（これは開設以来の最晩23年の12月21日に次いでのものである）．しかし年始めからは連日の降雪と低温で現在では大体平年並の積雪となり，又1月18～19日に急激な低温で港内は沿岸結氷（P）に掩われ，オホーツク海側沿岸では既に流水が姿を現わし，予報者の海氷予報の仕事が一つ多くなったわけです．……ここ2，3年流氷の接岸があり今年も，今後の東→北の風で稚内にも姿を見せることも考えられます．——春の来るのが待ち遠しい——

神社境内より港内を望む
（港内は沿岸結氷に掩はる）

初冬岩壁のカヂカ釣

（34．1．20成田記）